

## 入学・進学

小学校 6 年生の時の担任の先生が、新設された学校が進学校を目指しているらしいので、中学を受験してみても、と私の親に勧めてくださった。本当に進学校になるかもわからない時期だったのですが、見学に行ったところ、赤い絨毯がすごくきれいで、こんな学校に通えたらいいな、って思って、あこがれて、受験を決めました。私は中等部の 2 期生なので、入学した時はまだ学年もそろっておらず、でも校舎の完成間もない頃だったので、新しく、とてもきれいでした。そんな頃だったので、まだ校歌はできておらず、奈良の智辯学園の校歌で歌詞の一部を変えて歌っていましたね。ちなみに今の校歌ができたのは、私が中 4 の頃でしたかね？私が学生の頃は、藤田清司理事長先生は生物の先生で、授業は、冒頭にいつも雑談があり、それが長引くことが結構あって、楽しかったです。今もペンギンのおしくらまんじゅうの話はよく覚えています。そのおかげもあってか（笑）、理系を選択し、大学は理学部生物学科に進みました。

## 就職そして転職

大学では、酵素化学を専攻しました。具体的には糖を分解する酵素を、モノクローナル抗体を利用して精製すること、酵素が最も効率的に働くにはどのような条件が適当なのか、そういった研究をしました。就職しても研究職につきたくて、研究所を併設している会社に就職しました。でも就職後に会社の部署変更があって、異動で商品開発や秘書的な仕事も担当するようになりました。そんな折、和歌山県庁を勧めてくれる方がいらっやって、研究できないのであれば、文系の仕事でも一緒かな、って思って採用試験を受験しました。それで、4 年間勤めた会社を退職し、和歌山県に入庁することになりました。入庁してからは、東京事務所とテクノ振興財団（現わかやま産業振興財団）に異動したことを除いて本庁の部署を転々としてきました。前々職が広報課長だったのですが、この職が一番印象深かったですね。コロナ対応の記者会見もありましたし、ちょうど知事が変わるタイミングをこのポストにいましたので、庁内の雰囲気も変わっていくのを最前線で感じることができました。それにいろんな情報が入ってきますし、広報番組の知事との対談で著名な方と会う機会もありましたし。今は企画部で、主に新総合計画の策定に取り組んでいます。すでに検討は進められてきたのですが、岸本知事のご逝去を受けて知事が交代しましたので、新知事の方針を確認しながら策定を再開することになります。将来にわたって、どんな和歌山県を作っていくのか、どのような方向に向かって仕事をしていくのか、そのようなことをまとめていきたいと思っています。企画部では計画のほかにも文化振興やスポーツ振興、国際交流といった分野の仕事もあります。企画部長となっていていろんなイベントや行事に県の代表として出席する機会が多くなり、また、多くの人とお会いするのですが、名前と顔を覚えるのが苦手で、なかなか苦労しています。

写真がない！

学生時代の写真が見当たらないです。何回か引っ越ししたので、その際になくしてしまったと思います。和歌祭に参加している時や万博なんかの最近の写真ならありますが、当時の昔の写真がないです。

## 智辯会

私は運がいいのかもしれません。手相も運をつかむ大物政治家や大物芸能人と同じだそうです（笑）

和歌山県庁には、智辯学園和歌山高等学校卒業生を中心とした「県庁智辯会」があります。もう 15 年以上前になりますが、高等部 2 期生の先輩の職員と同じ課に在職していた時に、そこに一つ下の卒業生の職員がたまに遊びに来ていました。当時は県庁内にいくつか高校の OB 会が存在していたので、「県庁内に智辯の卒業生の会を作ったらどうかなあ。」って二人に提案しました。二人からは「ムリ」という素っ気ない返事があり、聞くと 1995 年（平成 7 年）頃に一度立ち上げを計画したものの、あまり機運が盛り上がりずに頓挫した経緯があったそうです。それでも「今なら作れるよ」としつつこく言っていた結果、2009 年（平成 21 年）に発足させることができました。この時に動いてくれた人、協力してくれた人たちに感謝です。これも私の運がいい、のひとつなのかもしれませんね。以後、コロナ禍を除いて毎年先生方の出席をいただいて、懇親会を開催しています。今では会員数が、奈良の智辯学園卒業生約 30 名を含め、200 名近くの数となっています。後輩となる職員たちは皆、優秀で今後も和歌山県を支える人材として活躍していてくれるものと期待しています。引き続き毎年 1 回つながりを深めていければいいなあと思っています。



設立総会では司会を務めました。



和歌山県庁職員  
1966 年 7 月生  
和歌山市出身

1985 年  
智辯学園和歌山高等学校卒  
1989 年  
大阪市立大学理学部生物学科卒  
（現 大阪公立大学）  
民間企業を経て 1993 年和歌山県庁に入庁  
市町村課をはじめ広報課長などを歴任し、2025 年 4 月より卒業生初の部長職に就任

## 智辯生のみなさまへ

具体的なアドバイスは思い浮かばないのですが、後悔をしないように、何にでもチャレンジしてもらったら、いいと思います。

あとからみると、私は幸運には恵まれているのですね。その時々。上司や同僚、部下もそうですし、周りで誰かが支えてくれました。一人二人っていう感じではなく、一緒だった人たちが、必ず助けてくれる。そういう人たちに巡り合ってきたように思います。

多分、誰もが多少の違いはありますが、周りに助けられてきたと思います。関わった方々に「感謝！」を忘れないようにしたいですね。



## 学生時代

すごくおとなしかったと思います。まじめな、目立たない学生だったと思っています。クラブは、バスケットボール部と茶華道部に入部していました。おとなしい、目立たない、と言いましたが、1 年だけ、なぜかチアもやりました、その頃は、今のように甲子園の常連ではなく、紀三井寺の県予選だけで、チアをやりたいっていう子が少ない頃だったので、頼まれてだったと思います。応援団の誰かが言い出して、同じ学年の女子たちがチアに参加したといった流れだったと記憶しています。チアをやった時にどっちだったかはっきり覚えていませんが、野球部のアンダーシャツが昔は赤色ではなく紫だったのを覚えています。少しずつ強くなって、高校を卒業した時の春のセンバツで初めて甲子園に出場したのですが、その時は応援に行ったと記憶しています。



卒業アルバムより

## 最近入部

学生の頃、茶華道部に入部していたのですが、和歌山県庁にも茶道部があって、つい最近入部しました。でも、学校の茶道部は裏千家に対して和歌山県庁の茶道部は表千家なので、作法が少しずつ違って、少々苦労しています。裏千家の茶道を学んでいたのは学校だけなので随分前なのですが、不思議なことに身体が覚えていて自然と間違えてしまって、「違うよ！」って言われて、「あっ、すみません。」って気付くっていう感じです。学校では、華道もやっていましたが作品の写真は残っていません。その頃は、まだカメラがないと写真は撮れない時代で、しかもフィルムなので。今だとデジタルで残せるし、スマホで撮れたりするので、気軽に写真が残せますが。。



卒業アルバムより

## 思い出

これといった思い出は、やはり修学旅行かな？初めての海外旅行で、韓国だったのですが、プサン行きの船に乗って、船酔いして大変だったという記憶があります。それだとあまりいい思い出ではないですね（笑）。当時は、ソウルでは白バイが先導してくれていたんですよ。そんなこと、普通ないですよ。数年後からはなくなったようですが、めったに経験できないことだったので、それはいい思い出かもしれません。普段の学校の行き帰りは、まじめだったので、寄り道もせず、帰っていましたよ（笑）